



山車

文・槐 真史
(中井町生涯学習参与)
校閲・写真・小川 直之
(國學院大學名誉教授)

よみがえる！中井の郷土資料

その12

五所八幡宮祭礼の魅力と

「山車」の意味

本年3月、五所八幡宮祭礼記録作成調査委員会による報告会が行われました。今回は、小川先生が発表された内容について紹介します。

五所八幡宮祭礼は、遠藤・北田・田中・久所・藤沢・半分形の「六名」を中心に、中世の郷の姿を今に伝える祭礼形式が改めて確認されました。かつて中村郷15か村の総鎮守であった五所八幡宮の神輿は、各村の御旅所を巡り、そこで山車を迎えることほぐ「鷺舞」が行われていたと考えられます。

六名が出す山車は、人形を飾る華やかな風流山車とは異なり、神木の榊と吹き流しを頂き、その下に三層の花鈴(枝垂れ花・髯籠)を備える独特の形をしています。これは神が降りつく「依代よりしろ」の姿を模したもので、山車そのものが神の依代としての意味を持つ点に大きな特色があります。また、祭り囃子には県内でも例の少ないシャギリと小田原系の囃子が伝わり、「三番流し」と呼ばれる打法は特に独自性が高いものです。さらに、全国的にも稀な神事芸能「鷺舞」が今も受け継がれており、山車の巡行を迎えることほぐ重要な役割を果たしています。

五所八幡宮の祭礼は、地域の歴史と信仰が重なり合い、今も息づく貴重な文化遺産です。調査委員会では、これらの伝承を次世代へ確実に引き継ぐため、今後も記録と研究を進めてまいります。

中井町の薬剤師による 暮らしの健康講座 vol.77

7月に入り、日差しの強さが一段と増してきました。今回は、この時季にぜひ見直してほしい紫外線対策についてお話しします。

海水浴やバーベキュー、お子さんの部活動など、屋外で過ごす機会が多くなる時季です。紫外線は目に見えないため、曇りの日でも油断は禁物です。**雲があっても紫外線の6～8割程度は地上に届いています。**

対策の基本は**肌の露出を減らす**こと。つばの広い帽子や日傘、長袖のアウトターやラッシュガードは体全体を守る意味でも効果的です。サングラスも紫外線から目を守るために忘れずにつけてください。

日焼け止めは外出前にしっかり塗ることが大切です。汗や水で落ちやすいため、**2～3時間おきに塗り直す**習慣をつけましょう。乳幼児や敏感肌の方は成分によってかぶれが出ることもありますので、使い始める前にぜひ薬剤師にご相談ください。

食事からのケアも効果的です。抗酸化作用のあるビタミンA・C・Eはトマトやにんじん、ピーマン、ナッツ類などに多く含まれています。これらをバランスよく取り入れることで、**紫外線による細胞ダメージを内側から和らげる助け**になります。

今年の夏も元気に過ごすために、日頃からの対策を習慣にしてみてください。



今回は
夏の紫外線対策
について話します！

なかいまち薬局
うるしばたしゅんすけ
漆畑 俊哉 薬剤師

